

令和4年度全国ドクターカー協議会 キックオフ会議議事録

- 日 時: 令和4年9月29日(木)17:00~18:00
- 場 所: Zoom開催
- 出席者:
 - 今 明秀 代表理事(八戸市立市民病院、日本病院前救急診療医学会 理事長)
 - 坂本 哲也 理事(帝京大学医学部附属病院、一般社団法人日本救急医学会 代表理事)
 - 西田 修 理事(藤田医科大学病院、一般社団法人日本集中治療医学会 理事長)
 - 横田 裕行 理事(日本体育大学、一般財団法人日本救急医療財団 理事長)
 - 細川 秀一 理事(日本病院前救急診療医学会、日本医師会常任理事)
 - 林 靖之 理事(大阪府済生会千里病院千里救命救急センター、日本病院前救急診療医学会 理事)
 - 山崎 早苗 理事(東海大学医学部付属病院看護部、日本病院前救急診療医学会 理事)
 - 横堀 將司 理事(日本医科大学付属病院、日本病院前救急診療医学会 理事)
 - 高山 隼人 理事(長崎大学病院、日本航空医療学会 理事)
 - 猪口 貞樹 監事(海老名総合病院、日本航空医療学会 理事長)
 - 小濱 啓次 監事(川崎医療福祉大学、日本病院前救急診療医学会 監事、日本航空医療学会 監事)
 - 土谷 飛鳥 レジストリ作成委員会委員長(東海大学医学部付属病院)
 - 田上 隆 レジストリ評価委員会委員長(日本医科大学武蔵小杉病院)
 - 小倉 崇以 活動基準作成委員会(済生会宇都宮病院)
- オブザーバー: 土屋 翼 (厚生労働省医政局地域医療計画課 災害等緊急時医療・周産期医療対策室)
- 事務局: 広瀬 美知子(日本医科大学救急医学教室)、吉村 有矢(日本医科大学救急医学教室)
- 事務局代行: 夏井 淳一(パース・ビュー株式会社)、鈴木 哲也(パース・ビュー株式会社)、高倉 経之(パース・ビュー株式会社)

■ 議 題

1. 前回委員会議事録の確認について(初回は無し)

2. ご挨拶

(横堀理事)よろしくお願ひいたします。本日は日本医師会の細川秀一先生にもご参加をいただいております。細川先生、お忙しいところありがとうございます。一言ご挨拶いただければとお願ひいたします。

(細川理事)みなさんこんにちは、日本医師会常任理事の細川です。愛知県医師会で10年以上救急・災害に携わってまいりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

(横堀理事)細川先生ありがとうございます。集中治療医学会の西田先生にもお入りいただいております。お忙しいところありがとうございます。それではスライドに沿って進めてまいります。それではご挨拶ということで日本病院前救急診療医学会の代表理事でいらっしやいます今明秀先生お入りでしたらお願ひいたします。

(今代表理事)日本病院前救急診療医学会の理事長をしています、八戸市民病院の今明秀です。みなさんこんにちは。日本Acute Care Surgery学会で宮崎に来ておまして青森と全く違う気候で驚いております。今日は日本ドクターカー協議会第一回理事会にご参加いただきましてありがとうございます。これからいろんなことを決めていく中で皆さまのお知恵を拝借したいと思います。日本救急医学会、集中治療医学会、日本航空医療学会、救急振興財団、日本医師会みなさまの力を借りて日本のドクターカーの良い姿を作りたいと思っております。先行している日本航空医療学会ドクターヘリのレジストリを参考に進めていきたいと思っております。幸にして救急医学会に日本医科大学の横堀教授が入っており、日本医科大学の絶大なる支援をいただき本日に至ることができました、感謝申し上げます。皆様ご協力をお願ひいたします。

(横堀理事)今先生、出先からありがとうございます。それでは日本航空医療学会理事長猪口貞樹先生お願ひいたします。

(猪口監事)日本航空医療学会現理事長の猪口と申します、よろしくお願ひいたします。ドクターカーの全国組織はこれまで作ろうとして完全なものになっていないところを今回こういう形式になりました。皆さまのご協力ですっかりしたものにしていきたいと思っております。日本航空医療学会としては専攻してレジストリ、協議会を作っており、できる部分は協力しつつ、将来、ドクターカーとドクターヘリのコラボレーションはプレホスピタルの課題だと考えています。こういったところまで含めて協力させていただきます。

(横堀理事)ありがとうございます、よろしくお願ひいたします。監督官庁でいらっしやいます厚生労働省地域医療政策課病院前医療対策専門官の土屋翼先生にお入りいただいております。

(土屋翼先生)厚生労働省の土屋です。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。日頃から厚生労働行政ご協力いただきまして大変感謝しております。この度初めてドクターカーの調査研究事業を行います。事業の開始が公募の関係で年度の後半に入ってしまう、仕様書も盛りだくさん中、無理をお願ひすること申し訳ない気持ちでおりますが、ぜひドクターカーの今後の良い姿を模索し、地域に示せばと考えております。

(横堀理事)ありがとうございます。本日多くの理事にご参加いただいております。集中治療医学会の西田修先生ありがとうございます。もしよろしければ一言ご挨拶をお願ひいたします。

(西田理事)集中治療医学会理事長の西田です。日頃からお世話になっております。大変重要な会が発足したと思っております。お声がけいただきましてありがとうございます。集中治療医学会として学会の特色を生かしつつ皆さまと協力していきます。よろしくお願ひいたします。

(横堀理事)ありがとうございます。救急医療財団の横田先生、よろしくお願ひいたします。

(横田理事)横田です、横堀先生ありがとうございます。資料を用意したのですがどうしたら良いでしょうか

(横堀理事)了解しました、ご挨拶終わりましたらすぐ横田先生にお願ひいたします。

(横田理事)横堀先生ありがとうございます。日本体育大学大学院の横田です。日本ドクターカー協議会、病院前医療学会が骨格となって機能する、その中に関連の航空学会、日本医師会、ご挨拶いただきました西田先生の集中治療医学会など様々な医療学会がはいってドクターカーの素晴らしいエビデンスを発信していく、あるいは課題について解決策を提言していくことになると思います。私も病院前救急診療医学会の理事をしておりました。以前からの経緯をまとめてお話しさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

(横堀理事)ありがとうございます。千里の林先生一言お願ひいたします。

(林理事)済生会千里病院千里救命センターの林です。病院前救急診療学会の理事としてドクターカー協議会に参加しております。当院もドクターカーを活用しております。少しでもお役に立てればと思っておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

(横堀理事)ありがとうございます。それでは監事の小濱先生お入りでしたらお願ひしたいと思っております。((ご回答なし)) それでは早速始めたいと思っております。横田先生画像共有をお願ひいたします。

3. 病院前救急診療医学会での全国ドクターカー連絡協議会について

(横田理事)お時間5分ほど頂戴したいと思います。今、厚労省の事業として日本ドクターカー協議会が立ち上がってこれから活動が期待されているわけです。実は病院前救急診療医学会の皆さんはご存知なんです

が、今年は横堀先生が会長ですが、私4年前にこの学会の会長をさせていただき集会をお世話させていただきました。その年の3月に病院前救急診療医学会の理事会で全国ドクターカー連絡調整協議会(仮称)を立ち上げることが理事会で決まり、学術集会を迎えました。その時に正式名称を全国ドクターカー協議会(仮称)としていましたが、(仮称)が取れた経緯がございます。設置要項に書いてありますが当時事務局は学会の事務局に置くことと記載されていました。年1回以上の検討会を開催すると記載されていました。本理事会でその設立が承認された全国ドクターカー協議会は会長挨拶の時は(仮称)でしたが、学術総会当日は(仮称)が取れました。プログラムにもドクターカー協議会の今後と題して当代表理事の猪口先生と中川先生に司会をしていただきシンポジウムを組みました。よくし、奥寺先生が会長をされた総会でも全国ドクターカー連絡協議会の会議が模様されました。その後第15回林先生会長、第16回今代表理事が会長の時はこの協議会は開催されなかったわけですが、今回横堀先生がこの協議会の代表のような位置付けだと思いますが、1つお願いがあります。今回たまたま先生が会長で学術集会を開催されるので当時の全国ドクターカー協議会をこちらの方に発展的に移行するようなメッセージを理事会と社員総会で認めていただくとスムーズにこの事業が今後発展的に進むと思います。当時理事をしていたのでそんな思いで、今日お時間を頂戴いたしました。

(横堀教授)横田先生ありがとうございました。枠組みについて今理事長、元々全国ドクターカー協議会というもので発足していて、さらに今回厚生労働省事業ということで病院前救急だけではなく、病院間搬送だったり、在宅救急だったり広いデータを求められています。枠組みが大きくなりますが、名前を変えるか、全国ドクターカー協議会の中に今回の事業を含めるか。みなさんの意見をお願いいたします。

(今代表理事)ありがとうございます。横田先生ありがとうございました。日本がいいのか全国がいいのかというところで、改めて全国と名前をつけて皆さんに通達しても良いと思います。厚生労働省の指定を受けるのに名前は問題にならないでしょうか？

(横堀理事)全く問題ないと思います。そもそもこの事業の事業体として勝手に名前をつけただけです。

(今代表理事)どちらが親しみやすいのか、これから行うことを表しているのか、みなさんと話し合っていたければと思います。

(横田理事)私は手続き上簡便な方がよく、会員の皆さまに発展的にこうなったという理解をきちんと伝えた方が混乱はないと思います。よろしく願いいたします。

(今代表理事)病院前救急診療医学会の理事会で決めまして、日本医大で行われる学会総会で話したいと思います。

(横堀理事)例えば全国ドクターカー協議会の中で進めた方がスムーズだと思いますが、規約の中に事務局は病院前救急診療医学会の中に置くことが書かれており、基本的に会員ということになります。

(横田理事)そこは会員に必要なかということを当代表理事の猪口先生と話し合い、緩やかな組織体として会費を集めないということを議論した覚えがあります。病院前救急診療医学会に入っていた必要はないという内容です。

(猪口監事)その通りで、何か立ち上げの時は制限を設けずに、活性化してきたところでは考えなければいけない。当座は難しく言わない方がKICKOFFとしては良いと考えております。

(横堀理事)ありがとうございます。いろんな団体から委員として参加していただくことになると思います。キツくないとか、会費などもとりあえず今年度は回収しないということで進めていくということですね。ありがとうございます。西田先生、コメントございますか？

(西田理事)成り立ちを知らずに参加しており、勉強させていただきました。集中治療学会としては集中治療を要する患者を、集中治療を施したまま病院間搬送する、厚生労働省の立場はECMOなどの際に明らかになったのは、重症患者については全く推進していないという立場がわかりました。危険だからということですね。であれば、しっかりとガイドラインを作り、病院間搬送をやる。一部重症加算を汲み出すための現地から病院というケース、ECMOカーを含めて。病院前とは少し違いますが、今回の立て付けの中で、全体に考えるためには必要だろうということで、横堀先生に声掛けしていただいた時に認識しています。母体となる学会に、個人的には入っていません。理事という役職を仰せつかることに関して、皆様がどう思われるか気になるのでございます。冒頭にも言いましたように、学会の特色を生かした参加の仕方があると思いますのでまあそういう面での協力させていただきたいと思っております。皆様を考えられる枠組みの中でいかにでも我々是对応させていただきます。特に強い意見とございません。

(横堀理事)おまとめいただきましてありがとうございます。土屋先生お入りですけれども、厚労省もそこを求めていると思います。その病院間搬送のデータ自体がない中でしっかりとデータを出していくことを厚労省は求めているよね。

(土屋先生)おっしゃる通りでございます。

(横堀理事)ありがとうございます。目的がしっかりとしているということで、これであれば病院前とはいえ、この病院間搬送も取り入れます。西田先生ありがとうございます。あと坂本哲也先生今は入りになっておられます。日本救急学会の代表理事でございます。坂本先生一言宜しくお願い致します。

(坂本理事)あのちょっと東京都のコロナの会議がまだ続いていたので遅くなりました救急医学会としてはこ

のドクターカーについては、我々の専門性の中で非常に重要な一部だと思っています。西田先生いらっしゃいますけど、病院間搬送もさることながら現場へ直接医師が出るということに関してはドクターヘリと並んでグラウンドでいくということで非常に重要な我々として専門性の一つと考えております。この教育の方にお手伝いをしていきたいという風に思っております。よろしくお願いたします。

(横堀理事)ありがとうございます。大体その経緯がわかりましたので今後それでは今先生、全国ドクターカー協議会という形で今までの規約を変えていくような形で、うまくそのマージさせていくっていう方で進めていくことでよろしいでしょうか。そうすると今まで参画されていた委員の先生方にも馴染みやすい、ご理解しやすいと思います。

(今代表理事)混乱の無いように、それから名前が似ていて間違わないように、そして名前見た瞬間に何をやっているか皆さん分かるように、「全国」ってついたほうがなんかこう「日本」よりも、みんなで作ってるって感じが出ていいのかなと私個人的に思います。ですから今日の理事会キックオフミーティングで一皆さんの支持をいただければ名前を仮称日本ドクターカー協議会から全国ドクターカー協議会既に、これは仮称じゃなくなっておりますのでそれに取り替えてもいいかなと、まだその皆さんが混乱しないうちに取り替えて、そして四年前にちょっとだけ決まっていたところを発展的に変更・改革していただければと思います。

(横堀理事)分かりました。ありがとうございます。早速次にまいりたいと思います。

4. 趣旨説明

(横堀理事)具体的に何をやるかということになるわけですが、令和四年度の厚生労働省の調査研究事業で日本航空医療学会が入札をし、落札をした案件でございます。具体的には、ドクターカー要請および運用に関わる後ろ向き研究、あるいは前向きのデータレジストリ、さらには運行のマニュアルの作成です。これが仕様書から先程土屋先生がモリモリに持ったという仕様書でございます。趣旨についてももしよろしければ土屋先生一言コメントいただければと思います。

(土屋先生)ありがとうございます。趣旨についてはおクターカーに関しまして色んなあの地域によってさまざまな形態があると承知しております。例を挙げるとラピッドの乗用車のタイプ、病院救急車のタイプ、患者搬送機能があるかないか、消防の救急車WS方式であったりピックアップ方式であったりといった形で今運用されていると言ったところ、プラスその出動の要請の基準もまったく地域によって様々で、空振りの多い地域もございますし、ある程度ドクターヘリと後の住み分けをしてうまく運用されている地域というところもあるように把握しております。どういった地域でどういった運用が望ましいかっていう点は調査できていない。ドクターヘリのように全国的な事例の収集っていうのができていない事情としてありました。ドクターについても同じように事例を収集して分析することが、分析するにもデータが揃っていないと分析がなかなか難しい。しっかり揃えて分析を行って土台を作っていくという形で事業としてやらせていただいております。ドクターカーに関しては政策的に国会で審議されるなど、政治的にもかなり大きな側面を担っているところでございますので、国策として進めていく予算を取りました。今回その会議体をしっかりやっていくことは勿論ですが、例えば都会ではどうか、地方ではどうか、離島ではどうかとかですね、事業の成果として、ただただレジストリ作りました、分析しましたではなく、その成果として、例えば都道府県市町村が使えるような、ざっくりとしたものでも良いと思いますが、できればなと思ってマニュアルの作成とまで書かせていただきました。かなり時間が大変だとおもいますが、そういった観点からご検討いただければと考えております。

(横堀先生)ありがとうございました。この入札案件に関しては、なかなか他の学会が扱いにくいこともあり、当初、急急医学会、集中治療学会、病院前救急診療学会、航空医療学会にお声がけをさせていただいて、まとめたました。1200万円の規模で半年間ということになります。初年度に関しては比較的運用資金は多いのですが、あの非常にタイトなスケジュールになっております。今回ご参画頂きました先生方に突然このように集まって頂いたというのが現状でございます。ありがとうございます。具体的な業務内容でございますが、一つ目がドクターカーに関するデータ調査で、後ろ向きの評価でございます。出動件数、受諾応需件数、時間外の要請、天候不良の有無、不応需数。こういったものを15,000症例ほど後ろ向きに集めることであります。あともう一つはドクターカーをどのように運用しているのか、どういったその運用形態があるのか、購入費、維持費、人件費、診療報酬とはどのように扱っているのか。こういった所もその評価をせよ、ということでございます。もう一つの事業としては前向きのレジストリ研究、これについてはドクターヘリのレジストリも今行なっておりますし、外傷学会のレジストリ等もありますけれども、そういったものを参考にしながらドクターカーの運用を行った際の前向きなレジストリ研究を行っていきます。これについてはその患者さんの転帰や治療・診断も含めて、あるいは病院間搬送であればその実状も前向きに調査をしていきます。これを集計し、ドクターカー、ドクターヘリやその他の既存の搬送手段とも比較をすることもこのような会議体で会議をし、集約をすることが求められております。そして最後ですけれども、ドクターカーの運行マニュアルですが、これについてもドクターカーもいろいろな運行方法があると思います。病院間搬送、病院前急行で現場に出るラピッドカー、さらには療養患者さんの在宅療養に使われるドクターカーなど色々ございます。その時の場面場面によってはどういった運用方法がいいのか、どのようなやり方が安全なのかという点も含めて多面的にマニュアルを作っていきます。組織図の説明させていただきますとご覧のようになっております。今日

代表理事の今先生と猪口先生小濱先生に監事になっていただいて、十三名の理事の先生方にレビュー・ご指導をいただき、四つの委員会を立ち上げていきます。土谷飛鳥先生はドクターヘリのレジストリの方で非常に精力的にやってらっしゃる先生でございますが、土谷先生に委員長として立ち上げていただきます。土谷先生一言もしあればよろしく申し上げます。

(土谷委員長)東海大学救命救急医学土谷でございます。ドクターヘリのレジストリを主に担当させて頂いた関係から、ドクターカーのレジストリも担当させていただくこととなります。短時間で多施設が共通するような変数を全部集めてきてかつ形にしていくと、かなり難しい作業になるかなと思います。委員の皆さまと協力してやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(横堀理事)ありがとうございます。既に十名前後、委員の先生方のセレクションが終わっているというところですかね。ありがとうございます。それからレジストリ評価委員会、これは実際にレジストリが作られた後のデータを評価していく。これは日本医科大学の田上隆先生にお願いをしております。更にドクターカーのマニュアル作り。これについてはECMOトランスポートでも活躍をされております小倉先生にお入りいただいております。あの引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。あのこれについても十八名ほど今委員の先生方の内諾が取れ、進めてまいりたいと思ひます。そして厚労省の土屋先生からのもう一つの達成目標として提示をされました、ウェブサイトを作ってデータを出していきなさいということでありまひす。広報委員会も立ち上げまひす。日本医科大学千葉北総の本村先生にお願いをしております。既にそのウェブを制作する会社と交渉段階に入っておりますので近日中にホームページが立ち上がりまひす。これについてですけれども組織まで説明させていただきまひす。何かご質問、コメント等ござひまひすでしょうか。ありがとうございます。全国という風になろうというところでありまひすがドクターが協議会の理事監事委員の名簿を示させていただいておりまひす。実際に事業として始めておりまひすが、バース・ビュー株式会社の夏井さんにも今日入りいただいております。事務局機能を担っていただくということ、それからレジストリの構築それからあの後ろ向きの研究についてもデータ収集ここまでお願いをしております。夏井さん一言もしよろしければお願いをまひす。

(夏井)ありがとうございます。バース・ビュー株式会社の代表をしております夏井と申します。弊社レジストリにも精通されている救急の先生が立ち上げた会社でございます。こういったことを目指すために活動してまいりました。今回あのお声がけいただきまひす、これはもう株式会社ですけれど儲けではないというところで事務局を含め、レジストリの構築また開発をしっかりとやらさせていただきたいと思ひます。あの期間が本当にない中ですのであの先生方に本当に強引に願ひをさせていただくことも多くなると思ひまひすが、あの横堀事務局長と一緒に最終的なところまで引っ張ってまいりたいと思ひまひすのでどうぞご指導よろしくお願ひいたします。

(横堀理事)ありがとうございます。かなり時間がタイト、各小委員会の日程調整もあの難しくなると思ひまひすけれどもあのどうぞよろしくお願ひしたいと思ひまひす。組織図で言うところのご覧のような形になります。ドクターカー協議会があつて、各団体から委員の先生方にお集まりをいただいております。事務局の方は日本医科大学、前向き研究に関しては倫理委員会を日本医科大学で通す中央倫理審査の形で進めてまいりたいという風に思っております。事務局の代行がバース・ビュー、それからウェブの制作はクリエイティブシーブにお願いをしております。ご覧のようなスケジュールになります。非常にタイトでございますが現場を考えているのがご覧の通りでございます。九月の後半ですけれど今日になります。理事会が行なわれまひす。総会という形で日本病院前救急診療学会の前日に総会を日本医科大学で行いまひす。それからあのこのメンバの中で、特に猪口監事にはお願いをしておりますが、このメンバの会議を毎月行うということ、後ろ向き研究に関してはもう十月の前半にアンケートの発出をし、一ヶ月かけて集計を行ない報告書の作成に移るということでござひまひす。レジストリ作成委員会に関してはもう既にコアメンバーミーティングを土谷先生と私とで行ないました。九月の末で委員の確定、十月中にはレジストリの項目の確定、一ヶ月間で作成をし、登録の開始が十二月からということになります。その解析研究テーマの分析はレジストリ評価委員会の田上先生と一緒にさせていただいて、テーマの分析を続けていき、三月には報告書を作成、三月の末には厚労省への納入ということでございます。それからあの活動基準評価委員会、小川先生であります。既に委員はできておりますので十月の前半にそれぞれの項目について、執筆者を振り分けていただひいて一ヶ月半で執筆をしていただきます。その後十二月の前半で委員会レビューという形になります。そこで手直しを行い一月の末に理事の先生方にレビューをいただひいて三月の前半に理事会承認から出版という形になり、三月の末には厚労省に納入という形になります。広報委員会に関してはデザインの草案を十月の前半に作り十月の後半からホームページの作成、そして、これらレジストリ委員会から得られたデータを三月末には発出をしていきまひす。厚労省の土屋先生、このような形で進めていこうと思ひまひすけれどもいかがでしょうか。

(土屋先生)私としては、異論はありません。タイトなスケジュールになります。よろしくお願ひいたします。

(横堀理事)ありがとうございます。既に七十を超える施設が参加ご支持をいただひいております。レジストリだけではなく、将来的にはドクターカー、病院から搬送病院前救護を含めて議論をできるようなその会議体にして参りたいということござひまひす。ここまひで今年度の事業についてです。田上先生お入りですね、ありがとうございます。

(田上委員長)すいません他の会議で遅れまひました。よろしくお願ひいたします。

(横堀理事)ありがとうございます。田上先生にはレジストリ評価委員会の委員長お願いをしておるところでございます。

5. 財源について

(横堀理事)土屋先生に聞けるかどうかなんですけれども、せっかく厚労省で作っていただいたものになりますので、ぜひこれ次年度以降も続けていきたいところですが、その運用資金に関して考えていかなければいけないと思います。

(土屋先生)財務次第ですが、勿論こちらとしては毎年のことと思ひ、概算要求をしております。あとは今年度の事業の成果次第で要求できることも変わってくるとも考えております。次年度以降も勿論申請はしております。ただ、確定するのは国会での予算審議の後になってしまいます。その後に来年度の落札をして事業をする性格上、来年度のことは申し上げられないところでございます。我々としては、このまま続けていくという意志でございます。

(横堀理事)エンカレッジなコメントありがとうございます。是非、今年度しっかりとプロダクトを出して納得頂ける形で進めてまいりたいと思います。土屋先生、すみません。聞きにくいことを聞いてしまいました。ありがとうございます。難しいのは財源だと思っています。色々な案もございますし、これについては今決めることではないかもしれませんが、皆さん頭の片隅に置いておいていただけたらと思います。この会費制を取るかどうかというところだと思います。外傷診療機構は、参加している施設からお金を取る形で進めているところもございます。で、もう一つは企業会員、賛助会員という形もあります。これについては実はドクターカー関連企業いくつかございまして、事業で何かお手伝いできることがないかということも既にコメントはいただいています。これについて、規約を決めるなど含め考えていかなきゃいけないかなと思います。一番大事なのが二番の公的研究費あるいは競争入札のところだと思います。今回難しかったのが、入札の手続きでございました。その入札条件が病院前救急診療学会が持っていなかったということですので、入札資格をぜひこれ取っていくということ、そしてはまあの法人化も目指すということを考えております。あとは定款、趣意書を皆様方にお送りします。目通しいただいた上で確定をしてみたいかなと思っております。

6. 今後の活動について

最後になります。今後の活動予定でございますが11月26日土曜日、日本医科大学で設立の総会を開催します。これについてはウェブの併催を考えております。また、メディアを用いた広報とも考えておりますが問題なければ、土屋先生メディアリリースとか問題ないですか。

(土屋先生)はい、大丈夫です。問題ありません。

(横堀理事)ありがとうございます。しっかりとこの厚労省の事業であることも出していきたいと思ひます。皆様のお時間を確保していただけると助かります、よろしく願いいたします。私が準備させていただいたあの資料は以上でございます。これからの進め方でありましてとかご意見等があればコメントいただきたいと思ひます。猪口先生何かコメントございませうか。

(猪口監事)あの大きな方向性は意見ありません。ドクターカーはドクターヘリよりも更に運用に多様性があります。バイクに乗って現場で行くだけっていうのから始めて、消防とコラボレーションしているのまで色々あります。一度、病院前救急診療学会の方でもパターン分けし名称を付けてありますけども、おそらくレジストリの項目をその構造的に作ろうとした時にその運用マニュアルを作ろうとした時にそのどういう形態で何を運用しているのかっていうものによって、考え方が変わるはずで。比較的早い時期にその部分を整理して、皆さんで共通の認識を持ってデータベースですとか、マニュアルを作っていけるようにするとよろしいかと思ひます。そうしないとバラバラになって後で齟齬が生じるかもしれません。ある程度現場をレトロスペクティブに調査してからやった方が確実な点もありますので次回の学会時ぐらいまでにある程度その辺の方向性が出てると、皆さんやりやすいかと。感想であります。それからあとお金の面は厚労省の入札に応じるのは、納税している団体じゃないといけないので、ちょっと来年は間に合わないと思ひます。法人化をまず進めて再来年ぐらいからはちゃんと独立できると思ひます。来年までは今の体制で行かざるを得られるかなと考えております。

(横堀理事)あの非常に大事なところにテンあのコメントいただきました。まず一点目はそのターミノロジーを決めなければいけない。これについてはレジストリ委員会の土谷先生からもコメントありましたが、言葉の定義をしっかりと決めることが大事だということで進めてまいりたいと思ひます。土谷先生のそういったところもよろしく願いしたいと思ひます。

(土谷委員長)はい、承知いたしました。

(横堀理事)あともう一点、お金関係の話は避けては通れないと思うんです。猪口先生、来年度も入札案件があった場合には同じような形で日本航空医療学会の方から出すという形で大丈夫ですか。

(猪口監事)あの航空医療学会としては、今日理事会で本件承認を得ており、特段の問題はないと思ひます。できれば病院前の方で独立してやれるのが一番良いと思ひます。法人化や財政基盤などなどがしっかりしていただきたいと思ひます。それまでは気にせずこちらの方に依存していただいて構わないと思ひます。

(横堀理事)ありがとうございます。

(土屋先生)厚労省土屋です。財源についてなんです、書面上の話になると思いますが、その事業にあたって別の財源を事業として使う場合は問題が出てきそうです。書面上の話にはなると思いますが、事業とは切り分けて管理していただく必要があるかなと思っています。厚労省からのお金と、集めたお金とごっちゃにして事業やってしまうと、足りないとかちょっと多すぎるとかっていう議論がなかなかできなくなってしまって、次の年のあの要求ということにも関わってきたりしてあとは事業のあの性格としてもちょっとあの他の労働者の名前を使って別のところからお金をあのもらってるみたいなことになるとなかなかそれも良くないかなとは思っています。全国ドクターカー協議会として書面上の話で切り分けていただければベストかなと思っています。以上です

(横堀理事)ありがとうございます。非常に大事な話だと思います。特に入札案件ですから、かなり会計に関してはナーバスにならなければいけないと思います。ありがとうございます。引き続き林先生何かコメントございますか

(林理事)ドクターカーの類型と名称につきましては以前も学会の方で検討して、一応、形はできております。ホームページに載せると言ってまた載せておりません。だからそれを活用して頂いたらいいのかなという風に思っておりました。私の方は以上です

(横堀理事)ありがとうございます。林先生ぜひ土屋先生に共有いただけますか。雛形があるようであればよろしくお願ひしたいと思います。西田先生ありがとうございます。何かコメントあればと思います(西田理事)非常にタイトなスケジュールの中、皆さんあの大変だと思いますけど集中治療学会がどこでどういう風に噛んでいくか、ご指示いただければと思いますのでよろしくお願ひいたします。

(横堀理事)ありがとうございます。あの特にあの問題になってくるのが、マニュアルでありますとか、病院間搬送のその記載記述についてです。集中治療学会側からもコメントいただくあるいはその執筆をいただくというかたちになるかなと思います。あとはそのドクターカーのレジストリもあの病院間搬送のデータを取るのにもこれがあつた方がいいとか、これがなかつた方がいいとか、そういつたところもコメントいただいて作っていく。厚生労働省からのその依頼としてもしっかりと病院間搬送のデータも取っていきなさいということです。その辺りをご指導いただければと思います。

(猪口理事)はい、ありがとうございます。今、集中学会では完成が遅れてますけども、集中治療要する患者さんを、集中治療を施したまま搬送する、いわゆるモバイルICUのガイドラインっていうのが進行しています。厚労省の特にあの保険局医療課の方ともお話を進めた上での案件でございまして、幸い、小倉先生が両方に入られてますので連携を取りながらやっていかなきゃいけないと思ってる次第です。よろしくお願ひします。

(横堀理事)ありがとうございます。そこをしっかりと整合性を保つていかなければいけないですね。小倉先生、ありがとうございますよろしくお願ひいたします。今先生何かございますか。

(今代表理事)ありがとうございます、今日は、第一回理事会という名前でしょうかそれともキックオフミーティングという立場、どういうことなんですかね。

(横堀理事)組織を立ち上げる前の段階ということになります。理事会というふうには取らなくても良いのかなと思ひました。

(今代表理事)わかりました。理事会になると、各委員長が出席しなくなるはずですよ。よくわかりました。

(横堀理事)ありがとうございます。よろしくお願ひします。坂本先生、すみません何かコメントございますか

(坂本理事)はい、救急医学会としても、間もなく学術週間前の理事会がありますので、そこで横堀先生から救急医学会の理事としても情報共有をしていただければと思います。恐らく救急学会としてはランデブーをする時の病院前救護との関係であるとか、あるいはそのアクティベーションの基準であるとか、全国の救命救急センターはどこでも、ドクターカー運用してるかどうかは別として多くの場合急車持ってますので、その運用等について救命救急センターに対する調査等色々手伝いできることがあると思いますのでよろしくお願ひいたします。

(横堀理事)はい、ありがとうございます。長崎大学の高山先生をお入りになられています。高山先生ありがとうございます。もし何かコメントあればお伺ひいたします。

(高山理事)長崎大学の高山です。航空医療学会の方からということに参加させてもらっています。私自身、以前から山本班の関係でドクターカーの調査・研究させていただいてましたので、両方の意味で関わらせてもらっています。今日に関してはすみませんちょっと業務中で先ほど入ったもんですからちょっと話の経緯が分かりません。内容としてのコメントじゃできません。以上です。

(横堀理事)ありがとうございます、あの高山先生にお願いなんですけれども、あの一番新しいそのドクターカー施設のリストですね、総務省消防庁から一回投げて、さらにそこから回収をしたデータで日本のドクターカーを持っている施設の実情を表しているというふうにするんですが。

(高山理事)昨年度行ないました分の調査では総務省消防庁の方からの発信をしていただくことができなかったもんですからそれであの全国のMC協議会に確認を取らせていただいて、そこから得られた情報で病院の方のドクターカーの情報を得たという経緯になっております。一覧をお渡ししないといけないところでしたけれ

ども、送付が遅れております。申し訳ございません。

(横堀理事)ありがとうございます、そしたら土谷先生の方にまた送っていただくということになりますので、私の方で結構ですので一度お送り頂ければと思います。

(高山理事)ありがとうございます。横堀先生、土谷先生両方にさせていただきます。

(横堀理事)はい、ありがとうございました。以上、理事の承諾をいただいた先生方にもコメントをいただきました。医師会の細川先生、もしお入りでしたらと思います。

(細川先生事務局)事務局でございます、ちょっと今席を外しておりますので申し訳ございません。

(横堀理事)了解しました、ありがとうございます。以上で皆様方のご意見もいただきました。委員の先生、委員長の方も今日三名の土屋先生、田上先生、小倉先生をお入りいただいております。一言ずつだけでもコメントいただいております。おしまいにはしたいと思います。まずじゃあ土谷先生お願いします。

(土谷委員長)土谷でございます。レジストリを上げるというような厳しいミッションではございますが皆さま協力してやっていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(横堀理事)ありがとうございます。田上先生よろしくお願いいたします

(田上委員長)日本医科大学武蔵小杉病院の田上と申します。私は評価委員という形なのですが、土谷先生と連携して行っていかなければいけないかなと思っております。コミュニケーションよく取ってやっていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(横堀理事)ありがとうございます。小倉先生よろしくお願いいたします

(小倉委員長)はい小倉でございます。半年間でどのくらいのマニュアルができるか、本当にチャレンジングな事業だと思っておりますが、自施設で実施しているドクターも含めまして、他施設のやり方等も参考にしながら半年間でより質の高いマニュアルに落とし込んで書面化していくことを頑張りたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

(横堀理事)はい、ありがとうございます。お時間ちょうど一時間になりましたので、以上で委員会の方ですね、初回ですけれどもキックオフミーティングおしまいにはしたいと思います。今先生何かコメントございますか。

(今代表理事)皆さんお疲れさまでした。ありがとうございました。

(横堀理事)はい、ありがとうございます。猪口先生何かコメントございますか

(猪口監事)特にございません。ありがとうございました。

(横堀理事)ありがとうございました。それでは以上で第一回になりますけれどもキックオフミーティング終了したいと思います。皆様方から多くのあのコメントをいただきましたのでこれを反映してどんどん進めてまいりたいと思っております。今日は忙しいところありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

以上